

中海におけるサルボウガイの桁曳き網調査

道根淳¹・原修一²・木村秀¹・青山喜久雄³

Investigation by dredge net of Ark Shell, *Scapharca subcrenata*, in Lake Nakaumi

Atsushi MICHINE, Syuuichi HARA, Minoru KIMURA and Kikuo AOYAMA

キーワード：サルボウガイ，中海

はじめに

かつて中海においてサルボウガイは重要貝類であり，漁獲ならびに養殖が盛んに行われていた。漁獲統計¹⁾が残っている1950年以降の漁獲量を見ると，1970年にかけて200トン～1,600トンの漁獲があった。また，この頃は養殖用稚貝の天然採苗も盛んに行われており，岡山県，佐賀県，広島県などへ多く出荷していた。しかし，その後，水質，底質の悪化，さらには中海・宍道湖干拓淡水化事業に伴う堤防建設等の影響によりサルボウガイの漁獲は激減し，1977年を最後に統計上漁獲がなくなった。

ところが近年，一部水域において漁業者の操業する刺網の網糸や延縄の綱などを噛んだ（挟んだ）状態で採集されるという情報があり，サルボウガイの資源に回復の兆しが見られる。そこで，本種の分布状況を把握するために中海漁業協同組合との共同調査として，桁曳き網調査を行った。本報告は，この調査で得られた本種の分布状況を取りまとめたものである。

調査方法

本調査は中海漁業協同組合所属昌次丸（0.99トン）により，松江市八束町の大根島東側で行った（図1）。使用した漁具は，かつてサルボウガイ用として使用

していた貝桁網（図2）である。調査は2006年11月21日に実施し，調査ラインを10ライン設け，各調査ラインとも1回操業を行った。調査ライン①～⑨は南北方向に，⑩は東西方向に曳網し，各調査ラインとも曳網距離200mを目安に操業を行った。なお，曳網距離は曳網開始点と終了点の緯度，経度をGPSで記録し，国土地理院ホームページ地図閲覧サービスにより2点間の距離を求めた。また，曳網面積は算出した曳網距離に貝桁網の網口幅112cmを乗じて求めた。採集した試料は各調査ラインごとに採集個数の計数と殻長測定を行った。

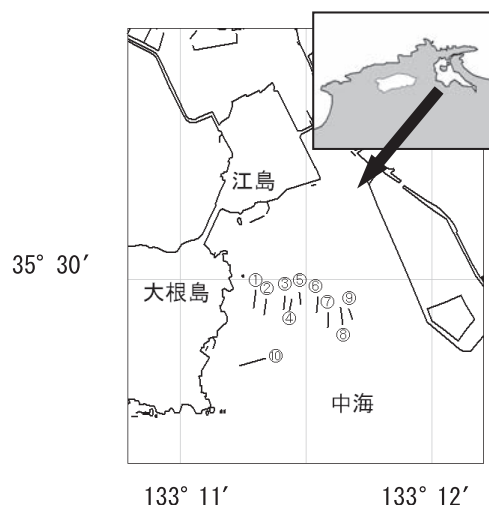


図1. 調査海域および調査ライン

¹ 漁業生産部 Fisheries Productivity Division

² 現：島根県隠岐支庁水産局 Oku regional office of Fisheries Affairs, Saigo, Okinoshima 698-8601 Japan

³ 内水面浅海部 Inland Water Fisheries and Coastal Fisheries Division

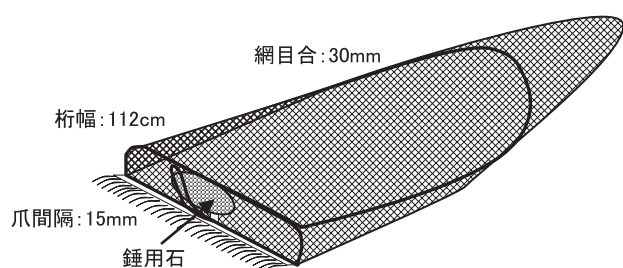


図2. 使用した貝桁網

結 果

サルボウガイの採集個数と生息密度 表1に採集個数, 生息密度ならびに曳網距離, 曳網面積を示した.

採集物を見ると, 生貝だけでなく, 多くの空貝も混ざっていた(図3). この空貝は, 殻の状態から判断して, 死後あまり時間が経っていないものと考えられた.

表1. 調査ラインの採集個数ならびに曳網時間, 曳網距離

ライン No.	採集 個数	生息密度		曳網距離 (m)	曳網面積 (m ²)
		100m当り	1m ² 当り		
①	43	19.8	0.17	217	250
②	63	33.7	0.29	187	215
③	69	42.1	0.37	164	189
④	92	68.7	0.60	134	154
⑤	140	95.2	0.83	147	169
⑥	83	44.6	0.39	186	214
⑦	59	33.5	0.29	176	202
⑧	90	42.7	0.37	211	243
⑨	3	2.3	0.02	130	150
⑩	76	30.0	0.20	311	381

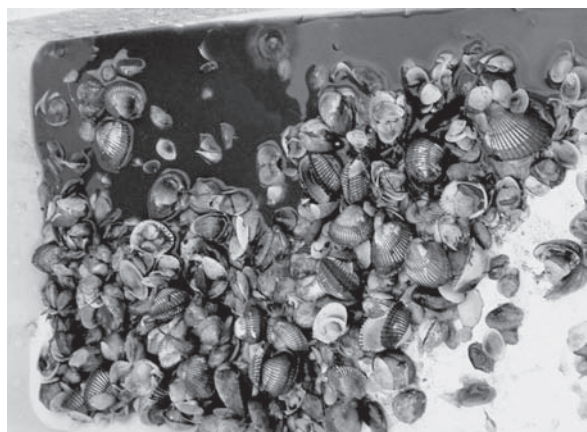


図3. 貝桁網での採集物

今回の調査では計718個のサルボウガイ(生貝)が採集され, 各調査ラインの採集数は3~140個であった. 最も多く採集されたのがライン⑤で140個, 一方, 最も少なかったのがライン⑨で3個であった. 各調査ラインの生息密度は, 100m曳網当りでは2.3~95.2個, 1m²当りでは0.02~0.83個であり, ライン④, ⑤周辺に多く分布し, この2ラインを中心に

東西に向け少なくなる傾向がうかがえた. 特にライン⑨は船舶航路確保のため, 掘り下げられた場所でもあり, 採集数が少なかったのは, 他の調査ラインよりも水深が深くなっていることが影響している可能性があると考えられた.

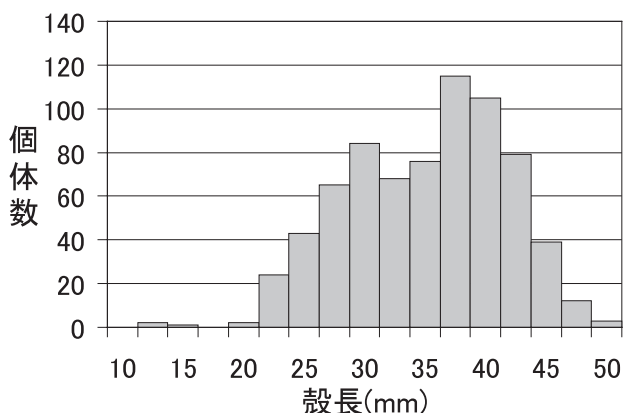


図4. 全採集物による殻長組成

殻長組成 図4に全採集物による殻長組成を, 図5に各調査ラインの殻長組成を示した. 今回採集された試料は殻長10~48.5mmであり, 各調査ラインとも殻長25mm以上のものが多く採集された. そして, 殻長30~32.5mmと殻長37.5~42.5mmを中心とする2つのモードが見られた. 日下部²⁾によると, 中海におけるサルボウガイの成長は満1年で殻長23mm, 満2年で殻長37mm, 満3年で殻長46mmと成長することから, 採集された個体は1歳貝, 2歳貝が主体であったと推定される. また採集数は僅かではあるが殻長12.5~17.5mmのものが採集された. これは当歳貝と考えられ, 今回使用した漁具の網目合が30mmであったため, 曳網中および取り上げ前の洗浄中に多くは抜け落ち, その残った一部と考えられた.

本種は満2年で親貝になる²⁾ことから, 今回試験操業を行った水域には母貝集団, そして当歳貝の存在が確認され, この調査海域は中海における生息場所の一つであることが明らかとなった.

謝辞 本調査に対し御協力頂きました中海漁業協同組合の安部昌次氏, 石倉正夫氏, 松本正行氏には厚く御礼申し上げます.

参 考 文 献

- 1) 中国四国農政局松江統計・情報センター編: 島根農林水産統計年報. 島根農林統計協会.
- 2) 日下部台次郎(1954) モガイとその養殖. 水産増殖叢書, No. 6, 75pp.

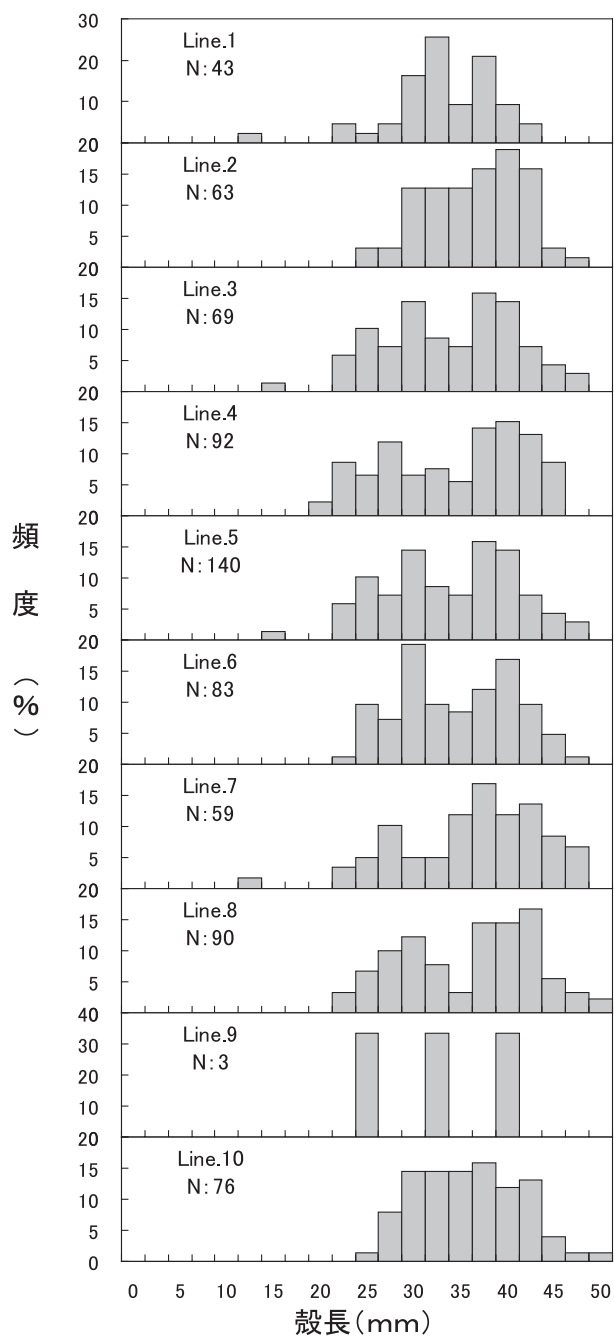


図5. 各調査ラインの殻長組成